

事業取組について

災害時の緊急医療支援体制を含む総合的地域医療支援体制を拡充・強化するため、次の事業に取り組み、全国に発信できる災害医療支援体制を確立します。

1. 災害対応の問題点と情報の収集・検証
2. 災害時対応医療人の育成

災害時における当センターの役割

1 超急性期～急性期 DMAT活動期

- ①DMATの参集拠点及び活動拠点機能
- ②被災地に派遣されたDMATとの連絡
- ③参集DMAT用の休憩場所機能
- ④超急性期～急性期に必要な医薬品・医療用資器材・食料等備蓄品の提供

2 亜急性期～ DMAT撤退後～被災地の医療機関の診察開始

- ①各種医療チームの参集拠点機能
 - ・全国から参集する医療関係チームの受け入れ機能
 - ・受付チームの活動調整
- ②アドバイザー機能
 - ・被災地の医療ニーズの把握・分析機能
 - ・支援策の企画立案
 - ・県庁に設置されるコーディネイト機能への提案
- ③確立された災害時医療提供機能
 - ・経験してきた災害支援体制の問題点に関する情報収集
 - ・検証の実施による確立された災害時医療の提供

3 他の都道府県で発生した災害への支援活動

- ①被災地への医療チーム派遣
 - ・医師等の医療チーム派遣・医療支援活動の実施
 - ・支援活動を通じて災害医療の新たな研究課題の抽出
 - ・知見等の蓄積

救急・災害・総合医学講座災害医学分野

独立した講座としては日本初となる災害医学講座を設立。平成28年8月には救急・災害・総合医学講座災害医学分野に再編し、災害医療に広く対応できる人材を育成し、東日本大震災・津波の総括から、今後起こりうる大規模災害への医療支援の在り方を提言していきます。

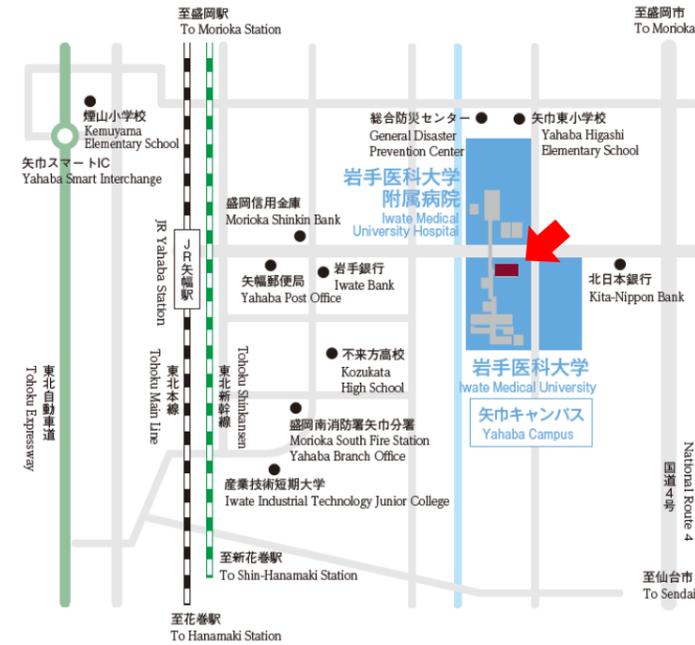
▶ 講座設立の経緯

東日本大震災以降、本学では、沿岸病院からの患者受け入れ態勢の整備、沿岸病院への医療チームの派遣、避難所での巡回診療等を行うとともに、すでに現地での現場把握や医療活動を展開していた関係機関・団体が協働して「いわて災害医療支援ネットワーク」を立ち上げました。そこでは、全体での情報を共有し役割分担することで各々の活動を推進するとともに、県外から派遣申し出のあった医療救護班のマネジメント、傷病者の広域搬送、医薬品・医療資器材の供給・被災者への検診活動、避難所環境整備の調査と提言、感染対策など様々な活動を展開しました。本学では、沿岸地域への長期的医療支援を行うとともに、こういった経験から見えてきた課題を検証し、今後の大規模災害時の医療支援のあり方を提言することを目的として、平成23年9月に災害医学講座を設立、平成28年8月には救急・災害・総合医学講座災害医学分野に再編いたしました。

▶ 講座基本理念

- 医療活動とともに、人命救助、通信と情報、物流、生活環境とコミュニティ形成等、幅広い視野から情報を集約し、災害時対応の検証を行います。
- 科学的方法を用いて、今回得られた様々な経験から課題を抽出します。
- 防災・減災を念頭に、今後の災害時対応の具体的なあり方を国内外に発信していきます。
- 得られた知見をもとに、学内外の医療従事者等育成に貢献します。

アクセス



電車	盛岡駅 ▶ (電車13分) ▶ 矢幅駅 (徒歩15分・1.2km) ▶ 矢巾キャンパス 花巻駅 ▶ (電車26分) ▶ 矢幅駅 (徒歩15分・1.2km) ▶ 矢巾キャンパス
バス	矢幅駅 (約6分) ▶ 「医大矢巾キャンパス」バス停下車 ▶ 矢巾キャンパス
車	盛岡駅から30分 東北自動車道矢巾スマートICから約12分

問い合わせ先

岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター

〒028-3694 岩手県紫波郡矢巾町医大通1-1-1
Tel:019-651-5110 (内線 5564・5567)
Fax:019-611-0876
E-mail:saigai@j.iwate-med.ac.jp
URL:http://www.iwate-med.ac.jp/saigai/



Iwate Medical University - Creating medical treatment for a new era



(2020.03)

マルチメディア教育研究棟

災害時 地域医療支援 教育センター

実践としての 災害医療教育による人材育成



センター長のごあいさつ

岩手県の沿岸部が壊滅的な被害を受けた平成23年3月11日の東日本大震災。発災後岩手医科大学は岩手県と連携し被災地への医療支援を様々な形で実施するとともに、超急性期から現在に至るまで、広域災害における様々な課題を経験いたしました。

平成25年春に文部科学省「大学改革推進等補助金（大学等による地域復興のためのセンター的機能整備事業）」を活用し、全国に発信できる災害時地域医療体制モデルの確立、実践としての災害医療教育による人材育成を目指し、災害時地域医療支援教育センターを竣工し、災害医療体制の発展に尽力しております。

また、被災沿岸病院との遠隔医療ネットワークの構築により、医師不足が顕著な本県の被災地医療の復興と医療課題の解決に向けた取り組みを行いました。

人材育成については、日本災害医療ロジスティクス研修を始め、災害医療研修など、災害医療に関する講義・シミュレーション演習等を通じて、多くの方々に災害について理解を深めていただき、有事の際の活動スキル向上を図っております。

そのほか東日本大震災・津波時における岩手県の活動を検証・分析し、そこから得られた様々な情報をフィードバックすることで、今後の災害医療提供体制の提言を行うための取り組みも進めております。

阪神・淡路大震災以降、多くの先達の手によって、我が国の災害時医療体制は発展を続けてきました。当センターでは、これらをより洗練されたものにし、次世代につないでいくことを使命として、さらなる研究・教育活動を推進して参ります。

センター設置の目的

岩手医科大学は、広大な県土と医療過疎地を抱える岩手県唯一の医師養成機関として、県内のみならず北東北の医療過疎地へ医師派遣を行うなど地域医療の改善を推進し、同時に学生への地域委医療体験学習・実習などをカリキュラムに導入するなど、地域を担う医師の要請にも積極的に取り組んで参りました。

このような地域医療支援の経験を持つ本学は、被害市日本大震災に際し、被災地への医療支援体制の早急な立ち上げと維持に尽力する中で、広域災害における様々な課題を経験しました。これら被災地を基盤に、これまでの災害医療の枠組みを超えた連携システムを構築し、災害時の緊急医療支援体制を含む総合的地域医療支援体制を拡充・強化する、また災害医療の教育拠点として、今後起こり得る大規模災害に対応できる人材を育成するなど、災害時地域医療支援教育センター（以後、当センター）は、被災地の医療復興、更には全国に発信できる災害医療支援体制を確立することを目的に設置されました。

また、東日本大震災時に立ち上げた『いわて災害医療支援ネットワーク』は、医療救護班のマネージメント、傷病者の広域搬送、医薬品・医療資器材の供給、検診活動、感染対策など様々な活動を展開しましたが、この『医療情報の保護・共有』が遠隔医療ネットワークの基礎となり、医療情報連携リポジトリを用いた診療情報のオンライン提供など、情報面でも被災経験に基づいた医療情報連携の確立を図っています。全県の医療情報をバックアップする機能をセンターに備えており、全方位型の医療支援のためのハード面における強化も当センターが核となる重要な役割を担っております。



災害時地域医療支援教育センター長 眞瀬 智彦



(東日本大震災時の岩手県庁内の様子)

1. 災害対応の問題点と情報の収集・検証

1. 「いわて災害医療支援ネットワーク」の課題と都道府県による後方支援のあり方の検討

▶「いわて災害医療支援ネットワーク」での活動記録や会議議事録より、保健医療ニーズの変化や実際の対応をデータ化し、都道府県単位の後方支援の在り方を検討しています。

2. 岩手県で実施された超急性期から急性期における病院間輸送の実態把握

▶岩手県災害対策本部内で活動した岩手県DMAT調整本部の活動報告より、広域搬送された患者の予後調査を実施しています。



▶機能停止に至った県内沿岸部の医療機関を対象に患者や搬送に関する調査より、大地震での「防ぎえた災害死」について実態を明らかにしています。

3. 市町村の災害時保健医療活動のコーディネートに関する実態把握

▶岩手県沿岸部の6カ所の自治体における発災後の初期対応について情報収集し、市町村単位での医療コーディネートと都道府県との連携のあり方について検証しています。

4. 発災後の医療ニーズの把握を目的とした医療救護班活動の実態把握と診療録の分析

▶外部から派遣された医療救護班の診療録データの解析を行い、大規模災害における医療体制・医療資機材の備えについて検討しています。

5. 避難所の生活環境の実績把握にもとづく環境整備のあり方の検討

防ぎえた災害死の検討

▶県内沿岸の中・大規模避難所兼40か所の生活環境に関するデータから、広域災害時の避難所運営の課題やあり方を検討しています。



■ **若手人材の育成・強化**
次世代の災害医療を担う若手医療人の育成のため、学生や新人医療人向けのシミュレーション機器を用いた実践的な実技演習を行う一方、小・中学生、高校生など、これから医療人を目指す若い世代に、医療に興味を持っていただけるような医療体験セミナーを開催しています。
また、消防や警察といった他組織の災害対応人材開発にも、当センターの施設を活用いただくことで、災害対応人材開発・強化に貢献しています。



2. 災害対応医療人の育成

■ 災害医療に関する各種研修の開催

当センターでは、東日本大震災の経験から災害時対応を含めた地域医療支援体制の確立と地域医療支援対応医療人の育成を目的に、各種研修会を開催しています。

▶ 災害医療研修会

幅広く災害医療について知っていただくため、学生、医療従事者のみならず、消防職員、警察職員、自衛隊職員、自治体職員なども対象とした研修を開催しています。災害医療とは何か？という概論から、トリアージ実習、通信機器実習、発災直後の初動や救護所運営のシミュレーション、多組織連携等、講義や実習、机上シミュレーションを織り交ぜながら、災害医療を実践的に学ぶ研修です。



▶ 日本災害医療ロジスティクス研修

全国初の組織の枠を超えた災害医療ロジスティクスのための大規模研修です。被災地に支援に入る保健医療活動チームとして、情報収集・管理、現地到達、活動環境の確保といったロジスティクス能力の向上を目的とし、岩手県沿岸部津波被災地の数拠点を会場とした、フルスケールの実践研修を行っています。



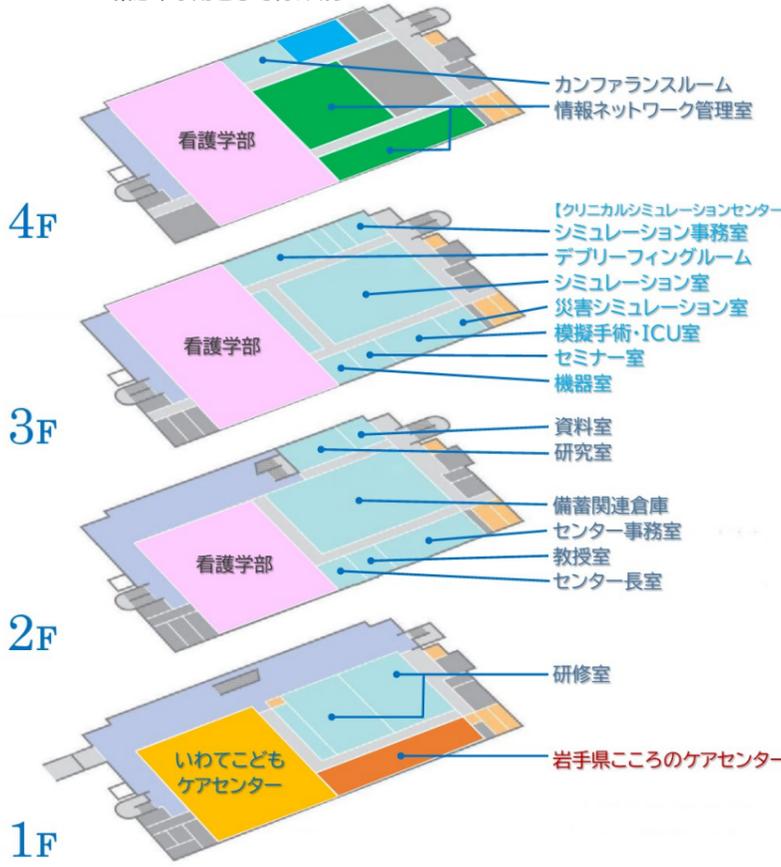
▶ 災害時実践力強化事業(岩手県委託事業)

岩手県内の医療従事者、救助関係者、行政職員の密な連携及び災害医療の実践力の強化を目的とし、岩手県より委託を受け人材育成・強化のための研修を開催しています。岩手DMAT隊員や災害医療コーディネーターの養成・スキルアップ。保健所職員・市町村役場職員の災害医療に関する知識の共有を図り、災害時に岩手県内で災害対応に携わる方々に対し、職種を越えて災害医療について学んでいただくために、多岐にわたる研修を複数開催しています。



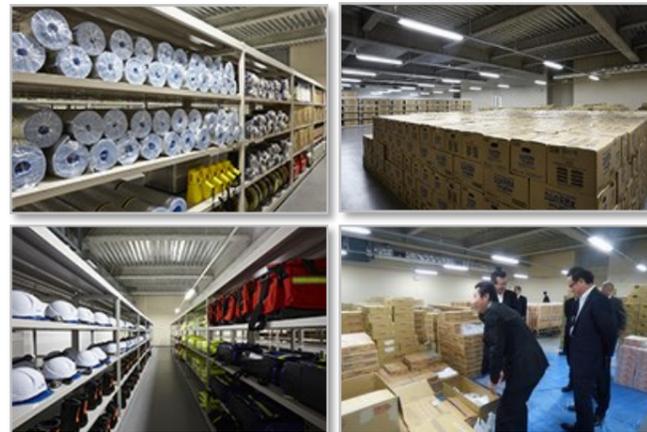
施設概要

- 延床面積／約9,500㎡
- 構造・規模／地上4階・完全免震構造
- 非常用発電機／500KVA
- 無停電電源装置 (CVCF) /100KVA
- 共用オイルタンク／15,000L
熱源で最大7日、発電機で最大3日分の電源供給が可能
- 給排水／受水槽・緊急排水槽1日300人を目安として、飲料水7日、雑用水1.5日、緊急下水用として約3日分



▶ 備蓄関連倉庫

災害時の医療支援の際に必要な各種資器材（非常灯・ヘルメット・安全靴・ハンディスピーカー・マット・毛布・応急救護医療セットなど大震災時の経験を活かし選定したもの）や長期保存可能な食料と飲料水約1,000食分を備蓄。災害発生時には岩手県に参集する保健医療活動チームを、後方から支える拠点として機能します。



▶ 情報ネットワーク管理室

東日本大震災では、沿岸部の医療機関のカルテが津波で流出し、重要な医療情報を喪失してしまいました。当センターでは、免震構造・非常用電源を備え、厳重なセキュリティ対策のもと診療データをバックアップしています。患者データを集積し、本学と被災地県立拠点病院間でデータの共有化を図っています。

■ クリニカルシミュレーションセンター

災害時地域医療支援教育センター3Fフロアは、医療系のシミュレーターを管理・運用するクリニカルシミュレーションセンターです。学生・新人医療人の育成のみならず、地域からの要望などを踏まえ、被災地の医療復興を担う医療人育成のための、開かれた教育施設です。近隣の医療機関や災害発生時に連携して活動する消防・警察との合同訓練や医学的な研修会の開催なども行っており、地域の皆さんに広く利用していただけるよう、施設・備品の貸出だけではなく、医学シミュレーション教育の推進・普及の拠点としても活動しています。



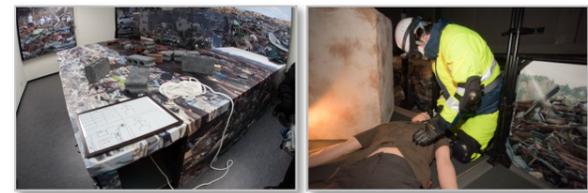
▶ シミュレーション室

約300㎡（南北14m×東西22m）のフリースペースは、60～80名規模の大人数グループでの実習に利用することが可能です。部屋の大きさを活用して、セミナーブースと実習ブースを並べてレイアウトすることも可能です。



▶ 災害シミュレーション室

倒壊した建物を模した災害現場に近い環境を再現し、がれきの中で要救助者を診療する体験学習ができる施設です。照明・音響設備、ビデオデブリーフィングシステムを備え、災害時の救助活動をリアルに体験することができ、またシミュレーションの様子は別室にて視聴することができます。



▶ 模擬手術・ICU室

手術室・ICUを模した施設です。手術用の手洗い場や各種医療機器、高機能患者シミュレーターを配備し、模擬手術・治療を体験できます。複数台のカメラとマイクで実習の様子を記録し、実習後に振り返りができるデブリーフィングシステムを備えています。



▶ デブリーフィングルーム

災害シミュレーション室、模擬手術・ICU室に設置されたカメラの映像を大型ディスプレイや液晶プロジェクタの大画面で視聴することができます。可動式の間仕切りにより、最大6部屋に分けて使用することも可能です。



災害時地域医療支援教育センターの災害支援活動

災害時地域医療支援教育センターおよび救急・災害・総合医学講座災害医学分野のメンバーは、東日本大震災の教訓をもとに、各地の災害現場における医療支援を行っています。

- ・熊本地震（熊本県阿蘇地域）
- ・台風10号による豪雨災害（岩手県岩泉地域）
- ・西日本豪雨（岡山県呉地域）
- ・北海道胆振東部地震（北海道胆振東部地域）
- ・モザンビーク サイクロン被害（アフリカ大陸モザンビーク）
- ・台風19号による豪雨災害（千葉県、福島県）

DMAT（災害派遣医療チーム）、DMATロジスティックチーム、国際緊急援助隊医療チームとして、被災現地や後方支援チームとして災害支援活動を行いました。

